

17	刈谷	刈谷市立富士松東小学校	ナカオカ ツクモ
		名前	中岡 つくも
分科会番号	6	分科会名	生活科教育

研究題名

学校に魅力を感じ、人と関わることで、自分の思いや願いを実現しようとする児童の育成
～1年生活科「お気に入りを探そう！われらは富東っ子探検隊」の実践を通して～

研究要項

1 主題設定の理由

4月に小学校生活をスタートさせた児童たちは、朝や帰りの支度や授業の準備などの基本的な生活が自分でできるようになってきたため、生活の視野が教室外へ広がるようになった。しかし、「今日は何があるか」「次に何をしてよいのか」など分からないことが多く、不安や疑問を口にする児童も多い。また、休み時間は、学級の仲間と会話をしたり、遊んだりする姿が少しずつ見られるようになってきた。しかし、「自分が」という気持ちが先行し、相手のことを考えて動くことが難しいため、自分の思いをそのまま受け止めてくれる大人との関わりを優先しがちになっている。

このような児童の実態を踏まえ、学校にはたくさんの魅力的な場所があったり、そこで生活するさまざまな人が関わったりしていることに気づき、学級の仲間とともに学校について知ることを楽しみながら、仲間の意見に耳を傾けたり自分の思いや願いを実現しようとする取り組みを構成し、授業を実践していこうと考えた。

2 目指す子どもの姿

- ・学校を探検する活動を通して、学校にはたくさんの魅力的な場所があったり、そこで生活するさまざまな人が関わったりしていることに気付くことで、これまでより安心して学校生活を送っている。
- ・発見したことを仲間と伝え合う活動を繰り返す中で、仲間に分かりやすく伝えたりさらに知りたいことを考えたりしている。
- ・学級の仲間とともに学校について知ることを楽しみ、仲間の意見に耳を傾けたり自分の思いや願いを実現しようとする取り組みをしている。

3 研究の仮説と手だて

(1) 研究の仮説

校内の施設や、同じ校内で生活する上級生の思いについて知ることが児童の安心感につながることで、学校を「知らない場所」から「自分たちの場所」へと変えていけるようになるだろう。

(2) 研究の手だて

(ア) 児童の気づきを視覚化するための工夫

- ① ワークシートの中に校内地図を2つ準備し、3回の学校探検を行う前と後に校内地図に「お気に入り」の場所のシールを貼り、比べられるようにする。それにより、探検後にシールの数や色が増えることで、自分の発見を確かめながら学校への関心や親しみを高めることができるだろう。
- ② 探検の際に、心が動いた場所や物を児童自身がカメラで撮影し、それを発表の際に活用する。言葉だけで伝えることが難しい児童でも画像を見せながら話すことで、仲間に分

かりやすく伝えることができるだろう。

(イ) 繰り返し行う活動場面の設定

- ① 探検は3回行う。1度目は学級全員で、2度目は学級での報告会の後にグループで、3度目は6年生との交流の後に行う。また、探検の後には活動を通して気付いたことを伝え合う場を設定することで、学校のことをより理解できるだろう。
- ② インタビューをしたり、単元の終わりに報告会を行ったりする相手を6年生に設定し、繰り返し交流する。児童は、相手意識をもつことで、思いや願いの実現に向けて意欲的に取り組むだろう。

4 単元構想

段階	時	学習活動	
		○各クラスでの活動	●学年全体での活動・指導上の留意点など
出会う	1	○幼稚園・保育園でのぼく・わたしの「お気に入り」を伝え合おう →小学校のお気に入り伝え合おう 「お気に入り」を探そう！われらは富東っ子探検隊	
	2	●小学校をみんなで探検しよう（学級） 手だて（イ）① ・富東っ子探検隊に任命し、任務としてやる気をもって楽しく取り組むことができるように、学校のキャラクターであるひがるんの腕章を用意する。	
体験と表現を繰り返す	3	・腕章に3つのシール貼り付け箇所を用意し、①自分たちだけの探検、②他者の意見を聞いての探検、③園との比較の3つの段階で分ける。達成するとシールが貼れるようにして、探検隊の気付きの視点を意図的に深めていけるようにする。 ・体全体で探検できるように、探検の視点を「目」「耳」「鼻」と伝える。	
	4	○見つけたことを紹介しよう 手だて（イ）① ・自分たちだけのオリジナル地図を作り上げることで探検の充実感を感じられるようにするために、児童の発表を基に、教師が地図に視点によって色分けしたシールを貼ったり書き込んだりして視覚的に整理する。手だて（ア）① ・児童が「もっと～を知りたい」という意欲を高められるように、話し合いの終盤にこれからやってみたいことを問う。	
	5	○探検の約束を考えよう ・思いや願いをもって見学に行けるように、さらに知りたいところを選択して行き先ごとに小グループに分ける。 ・約束を守ることへの意識を高めることができるように、自分たちで好ましい行動を考える場面を設定する。	
	6	○「もっと知りたい！」探検をしよう（グループ） 手だて（イ）① ・相手のことを考えたり仲間同士の会話を増やしたりするために、仲間と協力して探検に行くという場面を設定する。 ・発表の手助けとなるように、発見したことを記録するためのカメラを各班に一台用意する。手だて（ア）②	
	7	○見つけたことを紹介しよう 手だて（イ）① →小学校の「お気に入り」を伝え合おう ・書き込むことで発見が増えたことへの達成感が味わえるようにするために、前時までに使用していた学級の探検地図を引き続き使用する。手だて（ア）① ・新たに気付いたことを発表しやすくするために、前時に撮影してきた写真を活用する。手だて（ア）② ・新たな課題に出会うことができるように、単元の導入と同様に小学校の「お気に入り」について再度問う。 ・児童の考えと次の活動が結びつくようにするために、「お気に入り」を決めるには、どのような視点で考えるとよいのかを問う。	
	8	●ペアのお兄さん・お姉さんに学校の「お気に入り」を聞いてみよう 手だて（イ）② ・次時で学校の「お気に入り」を選ぶときの視点を話し合うことができるように、ペアの6年生にその場所を選んだ理由を伝えてもらえるようにする。特に、元気がもらえる、わくわくするなどの心情を表す言葉を強調して伝えてもらうようお願いする。	

	・インタビューしたことを次時でも忘れずに活用できるように、1年生にインタビューメモを渡す。自分で書くことが難しい場合は、6年生に手助けしてもらえるように願う。
9	○お兄さん・お姉さんの「お気に入り」を探検しよう（グループ） 手だて（イ）① ・6年生の言っていた内容を実感するために、6年生から聞いた「お気に入り」を確かめに行く時間を設定する。 ・たくさんの言葉に触れ、興味をもって探検に出かけられるように、グループで探検に行く時間を設定する。 ・次時で感想を伝え合う際に活用するために、インタビューを頼りに訪れた場所に行った感想をメモする。
10	○小学校の「お気に入り」を見つけよう ・言葉のイメージを広げられるように、6年生のお気に入りの場所に行った感想を伝え合う場面を設定する。 ・どんな場所であったかいつでも振り返られるように、学級の探検地図をみんなが見られる場所に掲示しておく。 ・6年生の言葉を新たな視点として自分だったらどの場所が当てはまるか考えられるように、十分に時間をとる。
11 ・ 12 ・ 13	○小学校の「お気に入り」をまとめよう ・活動の成果を味わえるように、単元の導入と同様に学校の「お気に入り」の場所にシールを貼る活動を行う。 ・その場所に親しみがもてるように、「お気に入り」の場所に自分がいることを想像して絵を描く。 ・小学校の「お気に入り」を児童自身の中で整理できるように、イラストに描いたことを言葉でも表現する。 ・どんな場所であったかいつでも振り返られるように、学級の探検地図や6年生のインタビューなどの今までの資料をみんなが見られる場所に掲示しておく。
14	○クラスの仲間と「お気に入り」発表会をしよう ・児童の思いがより伝わるようにするために、描いたイラストを見せながら発表を行う。 ・自分と比較して、自分では気付かなかった場所やその理由に触れることができるように、仲間のお気に入りを知る時間を設定する。 ・相手意識を強くもてるように、見つけたお気に入りや誰に伝えたいか児童に問う。
15	○ペアのお兄さん・お姉さんに、わたしたちの「お気に入り」を伝えよう 手だて（イ）② ・6年生に成長した姿が見せられるように、司会進行を自分たちで行う。 ・6年生との交流を深められるように、インタビューをした6年生にもう一度報告に行く。
振り返る 16	○単元を振り返ろう ・小学校とのつながりに気付くことができるように、第1時で伝え合った園での生活を振り返る時間を設定する。 ・単元の前と今の自分を比べて、心の変化や、友達と一緒に活動してきた自分のがんばりなどに気付くことができるように、本単元を通して感じたり考えたりしたことを単元の終末で改めて振り返る時間をもつ。

5 実践と考察

（1）学校の「お気に入り」の場所にシールを貼ろう（手だてア①）

本単元の授業を開始したのは、5月末であり、その時点で児童たちが知っている学校の教室や施設は、限られたものだった。第1時では、児童の出身幼稚園・保育園の先生や、砂場などの場所、遊具やピアノなどの物の写真を提示し、「お気に入り」について発表させた【資料1】。これにより、児童は幼稚園・保育園での経験を想起し、自身の思い出や愛着のあるものについて振り返ることができた。その後、児童に小学校での生活と比べさせたところ、「小学校の方が、お気に入りの数が少ない」という発言が出た。児童は小学校についてまだ十分に知らないことに気付くことができ、この気づきが、「小学校のお気に入りを見つけたい」という思いにつながり、探検隊として意欲的に学校探検に取り組もうとする姿が見られた。【資



【資料1】第1時の児童の発言



【資料2】「お気に入り」の地図（第4時）

料2】は、学校探検に向かう前、入学してから2か月で「お気に入り」と感じた場所を、校内地図にシールを貼って表したものである。シールを貼る活動からも小学校のことをまだまだ知らないことに気付くことができた。そして、第2・3時で学校探検を行い、探検をする中で発見したことを第4時で発表した。教師が児童に学校のことは理解できたのかを問うと、児童から「(クラスで見に行ったから) 見たいところが見られなかった」というような発言があり、2回目の探検はクラスで行くかと聞くと「チームで回ればいいじゃん」と児童が言ったため、気になる場所が近い児童でグループとして探検した。



【資料3】「お気に入り」の地図（第11時）

また、第11時に3回目の学校探検を経て、今の自分の「お気に入り」の場所にシールを貼らせた【資料3】。【資料2】と比べ、シールの数や貼る場所が多くなり、「お気に入り」の場所に行ったらどんな気持ちになるかをシールの色で区別することができた。第10時の報告会の中では、「理科室で実験したくてわくわくするからお気に入りです」と発言した児童がいた。学校探検で、児童が発見したことや思ったことをまとめた自分だけの地図を持っていることで、いつでも地図を確認できるようになり、学校が「自分たちの場所」になることにつながったと考えられる。

（2）見つけたことを写真で残そう（手だてア②）

2回目の学校探検では、1回目の探検とその後の報告会を通して、グループで気になった教室に行った。その際、1グループにつき1台カメラを用意し、発見したことや物を写真に撮って記録した。次時の授業では、自分たちが撮影した写真を見て、学校探検に行ったときのことを思い出しながら、振り返る児童の姿が見られた。

学校探検全体の振り返りでも、児童は、写真や記憶を頼りに【資料4】のようなイラストと文章でまとめることができた。児童が描いた振り返りの絵を見ると、「お気に入り」の場所の詳しいところまで描き込んでいたり、「お気に入り」の場所の近くにある特徴的な物や廊下の様子まで描き込まれていたり、児童が学校のことを理解してきたことが分かる。児童が学校のことをより理解できた要因の一つとして、児童が自身で写真を撮影したことは小さくないだろう。



【資料4】児童の振り返り

（3）学校探検に行こう（手だてイ①）

本単元では、学校探検を3回行うこととした。1回目は、学校全体をクラスで探検し、どこにどのような教室があるかを確認した。一度授業や行事で使用したことがある場所では、「ここ知ってる」という声が聞かれた。理科室をはじめとして、児童がまだ知らない場所では、「すごい」「何の部屋なんだろう」という声が上がったり、理科室を知っている児童が「ここは実験するところだよ」と友達に教えたりする姿が見られた。学校探検をした次の授業で探検のまとめを行い、児童の記憶が新しいうちに特別教室



【資料5】グループで探検をする児童②

の特徴をまとめることで、児童が各教室の場所とその教室がどのようなときに使われるのかを結び付けることができたと思われる。また、探検のまとめを行っても特別教室のことで分からないことがあったり、各学年の教室や特別支援学級の教室を十分に見えていないことに気付いたりし、もう一度学校探検がしたいという気持ちをもたせることで、2回目の学校探検への意欲を高めることができた。

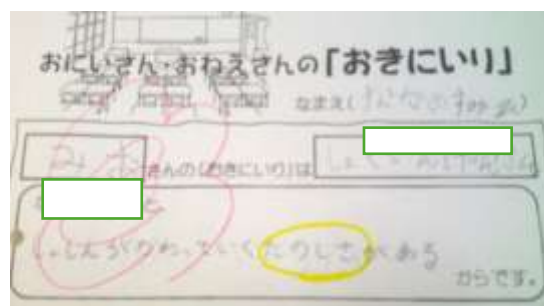
2回目の探検は、1回目の探検の中で興味をもった場所が近い児童たちでグループを作り、そのグループで探検に向かわせた【資料5】。1回目の探検とは違い、目的をもって探検へと向かった。各教室にある物を詳しく見たり、自分たちがもった疑問を解決しようと調べたりする姿が見られた。まとめでは、解決できた疑問や、新しく出てきた疑問などをクラスで共有し、学校への理解度を高めた。3回目の学校探検では、前時に6年生のお兄さん、お姉さんに学校の「お気に入り」とその理由を教えてもらい、その理由を確かめに行こうという目的で行った【資料6】。児童たちは、自分が興味をもった場所ではなく、6年生という他者の思いを聞いて探検するという初めての体験だったが、6年生が教えてくれたことを自分も理解しようと意欲的に探検に向かうことができた。6年生の「お気に入り」の場所に行った感想を児童に書かせることで、場所は同じでも自分と他者とでは感じとることが違うことに気付くことができた児童もいた【資料7】。共に過ごしている人の気持ちに触れることができて、学校のことを「自分たちの場所」と考える児童が増えたように感じる。

(4) 6年生に学校のことを教えてもらおう(手だてイ②)

2回目の学校探検が終わった後、児童に「お気に入り」の場所が見つかったかを尋ねると、ただその場所が好きだから「お気に入り」でよいのか、そもそも「お気に入り」とは何なのかと迷い始めた。そこで、6年生が学校の「お気に入り」の場所の絵を描いていることを児童に伝え、「お気に入り」の場所とその理由をインタビューしたいという思いが出てきた。児童たちは、入学したばかりの頃から6年生に手助けしてもらったり、校庭で共に遊んだりして6年生のことを身近な存在だと認識している。また、学校に6年間いる存在として、児童たちに学校探検の新たな視点を与える存在として適していると考えた。6年生にはあらかじめインタビューをすることや、その中で【資料8】にあるような「お気に入り」の場所に対する気持ちを伝えてもらうように依頼をした。6年生が教えてくれた言葉のおかげで、改めて学校へ興味をもち、意欲的に学校探検に向かうことができた。当初、児童たちは、自らの「お気に入り」の理由を「〇〇があるから」「〇〇で遊べるから」といった「お気に入り」の場所にある物にしか目が向いていなかったり、好きだからという理由で答える児童もいたりした。そこで、6年生に気持ちを表す言葉を教えてもらうことで、それまでの児童たちの「お気に入り」である理由が揺さぶられ、新しい視点をもって探検に向かうことができた。6年生が教えてくれた「おちつく」は何なのだろうか、「あんしん」するってこういう気持ちなのかなと考えながら、自分の「お気に入り」を改めて考えることができた。3回の学



【資料6】 6年生にインタビューをする児童



【資料7】 6年生に聞いた「お気に入り」の理由



【資料8】「お気に入り」の理由

校探検を終え、単元のまとめの振り返りを行ったが、【資料4】の児童のように「お気に入り」の理由の中に、自分がその場所から感じた気持ちを書く児童が多くいた。6年生との交流が児童たちの考え方に影響を与えたことが分かる結果となった。

6 成果と課題

(1) 仮説について

手だてア 児童の気付きを視覚化するための工夫

手だてアを講じたことで、児童は、学校探検で見つけたことや物、気付いたことを確認したいときに、いつでも校内地図や撮影した写真を見返すことができる環境の中で学習を進めることができた。手だてア①は、地図に発見のシールが増えたことで、児童の活動の充足感が満たせる結果となった。また、学校探検を重ねる中で、児童の地図に貼られたシールの数が増加した。これは、児童が校内のさまざまな場所に関心をもち、自分なりの「お気に入り」を見つけることができたことを示している。また、「楽しい」「わくわくする」「安心する」など、気持ちを表すシールの色にも広がりが見られた。これは、児童が場所ごとの特徴やそこで感じた思いを具体的に捉えられるようになったことの表れである。さらに、シールの増加や色の多様化から、児童が学校内の施設や場所について理解を深め、自分と学校とのつながりを実感しながら学校生活を捉えられるようになったことがうかがえ、児童の中で学校が「知らない場所」から「自分たちの場所」へ変わっていったことを示していると考えられる。仮説に対し、手だてア①は有効であったと言える。

また、手だてア②も児童の学校探検の気付きや疑問を写真として残したことで、グループとして同じ場所を探検していなかったとしてもクラスの友達と学びを共有できた。また、他のグループの撮影した写真と発表を聞くことで、児童は探検していない教室や場所のよさを知ることができ、有効な手だてになったと言えるだろう。

手だてイ 繰り返し行う活動場面の設定

本単元では、三回の学校探検を行ったが、各探検の目的を異なるものにすることで、児童の学校探検への意欲が衰えることなく、活動することができた。探検のまとめを探検後、なるべく早くに行ったことで、探検で得た学びを児童の中に落とし込むことにも注力した。その結果、休み時間には探検で訪れた教室の話をする姿が見られたり、6年生に教えてもらったウォーターサーバーを探しに行ったりと、学校への理解度が高まっていった。

また、6年生をインタビュー相手や最後の発表相手に設定したことで、児童の中に相手意識が生まれ、6年生のお兄さん、お姉さんに教えてもらったことや気持ちを自分も体験してみようとしたり、児童が感じる気持ちを表す言葉を教えてもらったときは、その気持ちを感じてみようとしたりする姿があった。その結果、【資料4】の児童は、「お気に入り」の理由に「いっぱいほんがよめてたのしいからです。」と書くことができた。このことから、手だてイは上級生の思いについて知ることが児童の安心感につながり、学校を「知らない場所」から「自分たちの場所」へと変えていくことができる手だてとして有効であったと考える。

(2) 今後の課題

6年生に気持ちを表す言葉を教えてもらったが、まだ1年生ということもあり言葉の使い方や意味を理解しきれていなかった。振り返りを見ると、気持ちを表す言葉の羅列になっている児童がいた。教えてもらった後に、一度気持ちを表す言葉を整理したり、クラスみんなで認識を共有する時間をつくるとよかったかもしれない。

また、振り返りをワークシートに書かせたが、1年生の1学期ということもあり、発達段階的に文章を書くことが難しかった。探検で発見したことを書きたいという気持ちはあるが、時間が足りなかったり、教師に手伝ってもらわないと書けないことが多くあった。そのために振り返りやワークシートに話型を用意し、児童の書く負担を減らし、発見を伝えたいという思いを伝えやすくさせる支援が必要だと考えた。